

[抄録様式]

財団法人 8020 推進財団 平成 20 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録	
1. 事業名：大垣市メタボ歯科健診事業	
2. 申請者名： 社団法人岐阜県歯科医師会 代表者氏名 会長 高木 幹正 印 担当者氏名 常務理事 足立 正孝	
3. 実施組織：社団法人岐阜県歯科医師会支部・大垣歯科医師会	
4. 事業の概要：歯周病が動脈硬化症などメタボリックシンドロームの病態と関連が深いことを考え、受診者の歯周病検査データと医科の特定健診データについて分析をして、そのデータ間の疫学調査を行う。歯周病の進行度比較や医科データとの相関を検討することにより重度歯周病がメタボの病態を悪化させることを検証する。歯周病を含めた口腔内の状態を精査し、早期に対処することで他の生活習慣病の予防や糖尿病等の早期発見、早期治療につながることを証明することになる。また、大垣市民に対し“メタボリックシンドロームと歯周病の関係”を PR することにより口腔保健の啓発に寄与する。	
5. 事業の内容： ①健診方法、疫学調査には慎重を期したい。そこで、“糖尿病と歯周病”の関連における第一人者でもある広島大学の西村英紀教授（広島大学歯学部健康増進歯学分野教授）に健診方法等協議し作製した。歯周病学会における歯周炎重篤度の定義の改訂等をふまえ、歯周ポケットが 4mm 以上（中等度以上）のタイプは、パノラマ撮影し骨の吸収度も診査することとした。また、歯周ポケットの測定は健診作業を効率化しなおかつ歯周炎評価の精度を鑑み Ramfjord の 6 歯法（部分診査法）を採用した。健診票は 3 枚綴りとし、歯科医院用は健診ガイダンスを記し、健診担当歯科医師に健診方法の示唆を与えるよう、受診者用は専門用語を避けわかりやすく留意、事務処理用は入力作業を行いやすいよう配慮した。 ②メタボ歯科健診の精度を確実なものとするため、大垣歯科医師会会員に対し、その趣旨・目的の周知徹底をはかり参加者を募り（特に日本糖尿病協会登録歯科医師）、協力歯科医師には健診方法等マニュアル作製し、3 回講習会を実施。さらにメーリングリストにその際使用したプレゼンテーションのムービーを添付した。 ③メタボ歯科健診対象者は大垣市に住所を有する 40 歳以上の大垣市民で、年度内に 1 回の受診。委託期間は平成 20 年 8 月 18 日～平成 21 年 3 月 31 日までとし、市民に対する周知方法として市広報紙に 8 月・12 月掲載、大垣市国保特定健診を受診した大垣市民に対しては医科の特定健診の結果送付時にメタボ歯科健診の案内と協力医療機関のリストを添付し個人通知した。（この大垣市国保の受診者に対して医科歯科の疫学調査を行う） ④メタボ歯科健診後、歯科データをファイルメーカー（データベースソフト）にて名前・住所以外の殆どの入力作業をマウス操作でできるよう“メタボ歯科健診データベース”を作製し、大垣歯科医師会内ですべて入力しデジタル化した。 ⑤受診者情報のセキュリティに配慮し、大垣市保健センターにおいて医科データとの結合を行う。 ⑥医科データ 16 項目（BMI や LDL、HbA1c 等の血液検査データ）と歯周病健診データ（ポケット測定、中等度歯周炎即ち歯周ポケット 4mm 以上のものは X 線パノラマ撮影し、骨吸収度を評価）項目の相関を分析する。 ⑦メタボ歯科健診啓発活動として、市民や事業所の保健担当者等に対して講演会を 3 回開催した。 ⑧ 3 月 20 日現在、365 名の受診者を得ており、3 月 31 日末の終了日までには 400 名弱の受診が予想される。40%が中等度以上の健診（パノラマ撮影）、60%が簡易型メタボ歯科健診であった。	
6. 実施後の評価（今後の課題）： ①特定健診初年度ということもあり、医科データの出力はコンピューターソフトの関係で 4 月になったため、医科歯科データの結合と疫学調査までは至っていない。この報告書は中間報告という形で行う。 ②特定健診の想定受診率より低い受診のためメタボ歯科健診の受診率も最初は低迷したが、大垣歯科医師会会員の協力ではほぼ目標受診者数の確保はできた。 ③今後、医科歯科連携を進め特定健診の検査項目に高感度 CRP・アルブミン尿を追加したい。	